# 総合学術調査報告書刊行によせて

小松島市長　中　山　俊　雄

阿波学会紀要第64号「小松島市総合学術調査報告書」発刊にあたり，ひとことご挨拶を申し上げます。この度，阿波学会平井松午会長様をはじめ会員の皆さまのご尽力により，小松島市の学術調査が実施され報告書が発刊されますことを心からお慶び申し上げます。

この度の学術調査は，小松島市にとって第２回目の調査となり，市制施行70周年となる令和３年に調査が開始されました。節目となる記念すべき年に，小松島市を再発見する有意義な機会をいただき誠にありがとうございます。

令和３年７月に結団式が挙行され，11団体11班約100名の皆さまにより多岐にわたる専門的な調査をしていただきました。依然として続く新型コロナウイルス感染拡大のなか，感染対策などを行っての調査には非常にご苦労があったことと拝察いたします。

そのような状況の中，令和４年４月には中間報告会を無事開催することができました。多岐にわたり興味深い報告を拝聴することが叶い，あらためて小松島市の自然や文化遺産についての認識を深めることができました。

小松島市域では，古くは弥生時代に小松島湾を一望する通称「勢合山」から銅鐸がみつかっており，海上交易に関わりがあると考えられています。また鎌倉時代の文書には「小松島津」や「小松島浦」の名がみられ，港の繁栄が偲ばれます。江戸時代には河道の変化からか，幕末に根井を訪問したアーネスト・サトウは「リトルハーバーネイ」と記していますが，第１回目の調査結果として昭和44年にとりまとめられた紀要第14号には明治からの築港の様子が描かれ，その後，港湾都市として発展してきた記録が残されています。それから50余年の時代の移り変わりが，小松島市を取り巻く環境にも大きな転換をもたらし，このことにより地域の文化や住民の生活環境，そして自然環境にも少しずつ変化をもたらしてきました。今回の報告書でその変遷が記録されることは，これからの小松島市を考える上でも非常に貴重な資料になります。

今回取りまとめていただいた調査結果をもとに，郷土の自然や文化遺産を今一度見つめなおし，先人から受け継いできた小松島市をさらに発展させるため，今後のまちづくりに活用していきたいと考えております。

結びにあたり，総合学術調査団の皆さま，そして調査にご協力をいただきました市民の皆さまに，心から深くお礼申し上げますとともに，阿波学会の今後益々のご発展と，会員各位の一層のご活躍とご健勝を祈念いたしまして，発刊のお祝いとお礼の言葉とさせていただきます。